

社会福祉法人ファミリーユ高知

2020年度 事業報告書

自 2020年4月1日

至 2021年3月31日

2021年度 社会福祉法人ファミリー高知の全事業

日中支援
夜間支援

2021.4.1

① 高知ハビリテーリングセンター

※赤字：変更箇所

事業所名	事業名(定員)	事業説明	ハビリの特長
障害者支援施設 多機能型→定員40名	自立訓練 機能訓練 20 生活訓練 10	自立した日常生活又は社会生活ができるよう、一定期間、身体機能又は生活能力の向上のために必要な訓練を行います。 機能訓練・・・1.5年間 生活訓練・・・2年間	機能訓練では主に病院退院後の身体・高次脳機能障害がある方に対して、継続したりハビリテーションと社会復帰に向けたアプローチを行います。生活訓練では知的・精神・発達障害がある方に対して生活の自律や社会参加、地域移行に向けたプログラムを提供し、特別支援学校卒業生の専攻科機能も有しています。 ※県内唯一の機能訓練事業所
	生活介護 10	常に介護を必要とする人に、昼間、入浴、排泄、食事の介護等を行うとともに、創作的活動又は生産活動の機会を提供します。	様々な障害特性を持つ方に対して、興味や関心が得られるその人らしい日中活動の提供に加えて、施設入所と協働して生活支援を行い、安心・安全な生活の実現を支援します。
	施設入所 40	施設に入所する人に、夜間や休日、入浴、排泄、食事の介護等を行います。	自立訓練への通所が困難な方や生活支援が必要な方に対して、心身の体調管理や食事・排泄・入浴等の介護、生活上での自立場面の増加などを目的に支援を行います。
	短期入所(ショートステイ) 2 空床	自宅で介護する人が病気の場合などに、短期間、夜間も含め施設で入浴、排泄、食事の介護等を行います。	施設入所の利用状況に合わせて事業を運営し、レスパイトが必要な家族のニーズに応え、地域生活の継続に寄与します。
アルベータ	就労移行 10	一般企業等への就労を希望する人に、一定期間、就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練を行います。(2年間)	職業訓練だけでなく、職場実習を通して実際の業務を体験する機会を大切に、ジョブマッチングを図っています。また、就職後のサポートを継続して行う事で就労を継続し企業との連携を大切に支援を行っていきます。
	就労定着支援	障害福祉サービスを利用して一般就労に移行した障害者が就職した職場で定着して働き続ける為に、必要な支援を行います。(3年間)	
	就労継続支援B型 40	一般企業等での就労が困難な人に、働く場を提供するとともに、知識及び能力の向上のために必要な訓練を行います。	
はるのハビリホーム	共同生活援助(グループホーム) 36	外部サービス利用型の類型(介護サービスは委託契約を結んだ指定居宅介護事業者が行う)をとり、障害のある人が日常生活上の介護や支援を受けながら共同生活を送ります。	ホーム全体がバリアフリーとなっており身体障害者の方や様々な障害を抱えた方に対応できます。お部屋のタイプもユニットタイプ(居間・食堂など共有)とマンションタイプがあり、安心・安全な毎日を送っていただくように設備しております。
キュール	障害児通所支援事業 放課後等デイサービス 10	学齢期の障害児に放課後や長期休暇中の居場所を提供し、障害特性に応じた環境設定や自立を促進する為に必要な支援の提供を行います。	自然豊かな環境を活かし、室内だけでなく屋外でのレクリエーションを取り入れ、長期休暇中には外出支援や様々なイベントを企画し、余暇の充実を図っています。他事業との連携から、中高生を対象とした就労準備型としての取り組みを行っています。
相談支援事業所		特定・・・ 障害者の自立した生活を支え、障害者の抱える課題解決や適切なサービス利用に向けてケアマネジメントをよりきめ細かく行います。 障害児・・・ 特定と同じですが、対象を障害児とします。	当センターの事業を利用している利用者のマネジメントができることでサビ管との連携がスムーズになります。当センターの利用希望をする障害者に対して、支給決定の参考となる書類を市町村窓口へ提出していくことで、利用開始までの流れがスムーズになります。

② しごと・生活サポートセンターウェーブ

事業所名	事業名(定員)	事業説明	ウェーブの特長
オウんパス	就労継続支援A型 10	一般企業での就労に不安や困難がある障害者に、雇用契約に基づき就業の機会を提供します。(65歳未満)	地域の病院のユニフォームやタオル等のクリーニングを請け負っています。仕事をしていく中で自身の特長と向き合い、働き続けるためのスキルを学んでいます。クリーニング師の資格取得もすすめています。
スウェル	就労継続支援B型 40	一般企業等での就労が困難な障害者に、働く場を提供するとともに、知識及び能力の向上のために必要な訓練を行います。	施設内では軽作業とクリーニング作業を行っており、施設外では病院周辺の清掃や地域の農家の方からの依頼を請けて畑作業やハウス作業なども行っています。また作業以外でも文化祭などの余暇活動なども行っています。
相談支援事業所		特定・・・ 障害者の自立した生活を支え、障害者の抱える課題解決や適切なサービス利用に向けてケアマネジメントをよりきめ細かく行います。	新規利用相談から利用開始までの流れがスムーズになり、ウェーブのサビ管との連携も取りやすく、より個々の希望に応じたサービス調整が行えます。

法人本部事業報告

第1回理事会

- 日 時 2020年5月28日(木) 18:00～
- 場 所 しごと・生活サポートセンターウエーブ 3階地域交流ホール
- 議 題 監事監査報告
- 1 2019年度事業報告(案)の件
 - 2 2019年度決算報告(案)の件
 - 3 経理規程改正の件
 - 4 2020年度定時評議員会招集の件

定時評議員会

- 日 時 2020年6月12日(金) 18:30～
- 場 所 しごと・生活サポートセンターウエーブ3階 地域交流ホール
- 議 題
- 1 2019年度事業報告の件
 - 2 2019年度決算報告の件
- その他

第2回理事会

- 日 時 2020年9月23日(水) 18:00～
- 場 所 しごと・生活サポートセンターウエーブ 3階地域交流ホール
- 議 題
- 1 2020年度1次補正予算の件
 - 2 高知ハビリテーリングセンター就労継続支援B型定員変更の件
 - 3 高知ハビリテーリングセンタークリーニング機器購入に係る入札の件
- 報告事項
- 理事長：業務執行状況報告

第3回理事会

- 日 時 2021年2月8日(月) 18:00～
- 場 所 しごと・生活サポートセンターウエーブ 3階地域交流ホール
- 議 題
- 1 はるのハビリホーム類型変更の件
 - 2 就業規則変更の件
 - 3 クリーニング機器整備費用借入の件
- 報告事項
- ハビリ：クリーニング機器入札結果報告
- 法人本部：育児休業等に関する規則及び介護休業等に関する規則改正報告

第4回理事会

- 日 時 2021年3月29日(月) 18:00～
- 場 所 しごと・生活サポートセンターウエーブ 3階地域交流ホール
- 議 題
- 1 2021年度事業計画(案)の件
 - 2 2021年度予算(案)の件
 - 3 2020年度2次補正予算(案)の件
 - 4 評議員辞任に伴う後任評議員候補者選任の件
- 報告事項
- 理 事 長：業務執行状況報告

評議員選任解任委員会

- 日 時 2021年3月29日(月) 19:30～19:40
- 場 所 しごと・生活サポートセンターウエーブ 3階地域交流ホール
- 議 題
- 1 評議員選任の件



しごと・生活サポートセンターウェーブ事業報告

センター長 沼 慶子

はじめに

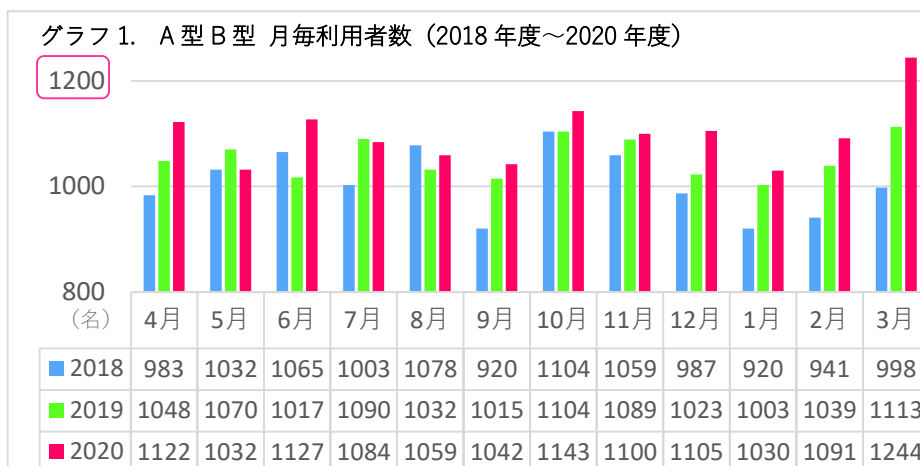
新型コロナウイルス感染拡大により、利用者も職員も気の抜けない日々が続き、感染や環境の変化への不安により利用を控える方もいましたが、持病の悪化や大きく調子を崩す方もなく、多くの方が普段どおりに生活と仕事を続けることができました。また、しごと・生活サポートセンターウェーブ（以下ウェーブ）もコロナに負けることなく一つのチームとして、力強い一歩を踏み出せた一年だったと感じます。

事業実績概要

スウェルにおいては、病院から発注頂いた手作りビニールガウンの制作や、入院患者様の洗濯物の増加、施設外就労などにより、月々の作業収入が前年と比べ約 35%増加、それに伴い工賃も向上させることができました。OWNパスにおいては新規受託先が増えたことで安定した作業収入を得ることができ、2021年1月には定員枠の10名雇用が実現しました。

2020年度は“A型B型合わせて1,200名”を皆で目標とし取り組んできました。到達が難しいと感じることもありましたが、あきらめることなく支援に力を入れ、3月には漸く1,244名に到達。（グラフ1参照）今後も1,200名を目指しながら課題である土曜祝日の稼働率を上げていきたいと考えています。

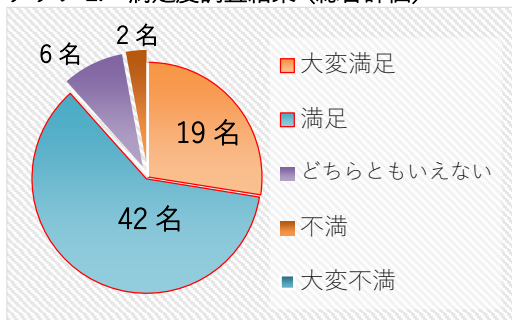
11月には初挑戦の文化祭『ウェーブだよ、全員集合』を利用者と家族対象に開催しました。利用者と共に出店内容を考え、焼き芋や焼き鳥の販売、個展、音楽の弾き語りや大抽選会を行い、大盛況に終わることができました。コロナ禍で気持ちが落ち込む中で、利用者の笑顔や様々な一面が見られ、職員も団結力と成功を感じられた良い企画であったと考えています。



満足度調査の実施と結果

ウェーブ内には意見箱を設置していますが、あらためて利用者と家族対象に満足度調査を実施し、70名中69名の方から回答を頂きました。調査は郵送で自宅へ送り、郵送で回答する方法で、調査内容は職員の態度や関わり方、個別支援計画の内容、建物や環境などについて具体的に調査を行いました。サービスを総合した調査については、88%の利用者が大変満足もしくは満足であるとの回答を得ることができました。（グラフ2参照）支援には正解も限界もないため、職員は「これで良かったのか」と日々不安に思いながら支援にあたっています。今回の満足度調査は職員にとって大変安堵する結果となったと考えています。なお、調査には良いことばかりではなく、私たちが気付けなかった問題を見つけることができ、現在も一つずつ改善し、支援に活かしている最中です。

グラフ2. 満足度調査結果（総合評価）



思いをカタチに

2021年度は、利用者職員ともに「挑戦してみたい、やりたい」と思ったことをカタチにするため、感染対策や権利擁護の観点と利用者の思いを大切に、チームとして熱意をもって取り組んでいきたいと考えています。

職員数 13 名 (3月末時点)	センター長（相談支援専門員兼務） 1名 副センター長（相談支援専門員兼務） 1名 相談支援専門員（支援員兼務） 1名 サービス管理責任者（うち1名支援員兼務） 2名 事務員（支援員兼務） 1名 支援員 7名																																							
会議等	職員会・経営戦略会 : 1回/月 ケース検討会・作業部会: 隔週木曜																																							
委員会活動	委員会活動は基本的に利用者とともに活動することを主とし、必要に応じて研修会や集会を開催 工賃向上 : 平均工賃向上、作業収入と利用者工賃評価、作業の効率化 防 災 : BCP 作成、3ヵ月毎避難訓練研修の実施、備蓄や担架等の購入 広 報 : ふくらむ原稿、ウェブ新聞部発足 安全衛生 : BCP 作成、感染予防、毎月健康チェック、KTK 用度美化 : 設備管理、緑化美化、車両管理 就労チャレンジ: 企業見学、ウェブ外での作業調整 地域協働 : 施設外での就労の機会、地域イベント（釣り、メーク、新聞等）																																							
年間行事	6月 クリーニング慰労会 8月 アイス納涼会 11月 文化祭 12月 表彰式																																							
職員研修	<外部研修、資格取得> 社会福祉会計簿記「初級」 1名 職場適応援助者養成研修 1名 クリーニング師（オウンススタッフ） 1名 令和2年度強度行動障害支援者養成研修 1名 令和2年度高齢者障害者虐待防止権利擁護研修 4名 クレーム対応研修 7名 ツクイeケアラボ 全員 (接遇、感染症対策、クレーム対応、チームワーク、モチベーションマネジメント) <発表> 農福連携サミット 1名																																							
事故等状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th>事故レベル</th> <th>分類</th> <th>件数</th> <th>詳細</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>レベル0</td> <td>インシデント</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>レベル1</td> <td>インシデント</td> <td>17</td> <td>火傷2件/打撲2件/転倒5件/業務過失8件</td> </tr> <tr> <td>レベル2</td> <td>アクシデント</td> <td>1</td> <td>メール誤送信</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">レベル3</td> <td>事故（苦情）</td> <td>7</td> <td>クリーニング7件</td> </tr> <tr> <td>事故（業務過失）</td> <td>7</td> <td>軽作業1件/クリーニング5件/事務1件</td> </tr> <tr> <td>レベル4・5</td> <td>事故</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>感染症</td> <td></td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>車両事故</td> <td></td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>施設安全</td> <td>1</td> <td>利用者の消費者金融からの再三の電話対応</td> </tr> </tbody> </table>	事故レベル	分類	件数	詳細	レベル0	インシデント	0		レベル1	インシデント	17	火傷2件/打撲2件/転倒5件/業務過失8件	レベル2	アクシデント	1	メール誤送信	レベル3	事故（苦情）	7	クリーニング7件	事故（業務過失）	7	軽作業1件/クリーニング5件/事務1件	レベル4・5	事故	0		感染症		0		車両事故		2		その他	施設安全	1	利用者の消費者金融からの再三の電話対応
事故レベル	分類	件数	詳細																																					
レベル0	インシデント	0																																						
レベル1	インシデント	17	火傷2件/打撲2件/転倒5件/業務過失8件																																					
レベル2	アクシデント	1	メール誤送信																																					
レベル3	事故（苦情）	7	クリーニング7件																																					
	事故（業務過失）	7	軽作業1件/クリーニング5件/事務1件																																					
レベル4・5	事故	0																																						
感染症		0																																						
車両事故		2																																						
その他	施設安全	1	利用者の消費者金融からの再三の電話対応																																					

就労継続支援A型 オウンパス

2020年度の取り組み

オウンパスでは利用者を“スタッフ”と呼んでいます

■総括 『仕事をする責任、人としての成長を“スタッフ”とともに』

目標としていた10名雇用を実現できたことはオウンパスとして大きな成果であった。今後は継続して雇用できる体制づくりや、新規受託先の獲得、作業以外での“スタッフ”との関わりなど個々の希望に合わせて対応していきたい。仕事面については製品への苦情や問い合わせ、業務中の事故も多かった一年であったため、今後は品質向上への取り組みや対策を考え実施していきたい。ウェーブ文化祭では“スタッフ”の新たな一面が見られ、思い出に残るイベントとなった。

コロナ禍で仕事や生活が大きく変化した一年であったが、仕事への責任、人としての成長をオウンパス全体で今後も実現していくために、できていることを今後も継続し、できなかったことを実現できるための取り組みを行っていきたい。

■目標達成

“スタッフ”を大切に

支援費収入UP

- ・一人一人に関わる支援
- ・丁寧な面談・オウンパス
- ・支援費収入はUP
- ・2019年度より222名増

10名の雇用が実現

- ・平均利用者数163名
(2019年度145名)

仕事を考える

質、正確さ、効率化

- ・意識と業務の改善
- ・事故報告も多かった

座学等で人としての成長

- ・座学は「学び」に
- ・マニュアル作り
- ・職員とともに営業

クリーニング師試験

- ・4名受験、1名合格

“魅力再発見

やりたいことを実現

仕事以外での取り組み

- ・自分たちの入社式
- ・施設外での就労
- 文化祭**
- ・新たなチャレンジ
- ・利用者が自ら企画し参加



- 活動
 - ・座学の充実、企業等への見学、新規受託先の開拓
 - ・事故苦情等件数：やけど1件、苦情3件、業務過失2件

- 利用実績
 - ・3月末時点での登録者：10名
 - ・新規利用者：3名（7月1名入社/2021年1月2名入社）

特徴と強み

■会社オウンパスとして取り組み

定員10名となって今年により一層の連帯感が生まれ、2021年度には『品質向上』を目標として“スタッフ”全員で取り組む熱意をもっている。また受託先の新規開拓にも積極的に取り組み、作業収入アップのために取り組んでいる。

■“スタッフ”の成長

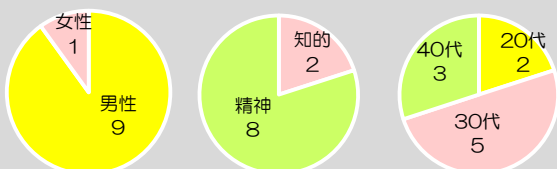
クリーニングの業務を通して社会人として成長できる環境があり、座学や施設外での就労や見学等へ行くことにより、自分自身の特徴と向き合うことができる。

■クリーニング師資格取得

クリーニング師の資格取得のため、職員と“スタッフ”で勉強会を実施。資格取得のための勉強会を実施することで、結果的にクリーニングの質のアップにつながる。

高知県クリーニング師合格率は4割程度

■参考資料 利用者状況（名）



2021年度へ

《目標》

理想をかたちにしつづける ONE TEAM

～いいかげんから良い加減へ

《具体的な目標》

◇◇品質向上◇◇

■良いチーム作り

- ・一人は皆のために、皆は一つの目的のために
- ・10名それぞれがチームとして活躍

■いいものを提供する

- ・2カ月毎のPDCAで支援力と業務効率のアップ

■かんがえる“スタッフ”養成

- ・自分自身で考え、チームとして行動

■げんばで生き活き

- ・地域と協力しながら、活躍できる場づくり
- ・元気なあいさつや声掛け、からだ作り

就労継続支援B型 スウェル

2020年度の取り組み

■総括 『その人らしい就労・生活を職員も一緒になって体感し考え進めていく』

コロナ禍で心配されたこととして、体調不良や不安から利用を控えたり、症状や病気が悪化しスウェルに来られなくなることや、見学や体験を制限したことにより新規利用者が前年度よりも減ったことだった。実際は、利用率から見ると前年度以上に休む利用者が減り、皆元気に出勤できたこと、人数は少ないながらも新規利用者の定着率は高かったことは何よりも良かった。また、施設外での就労やウェブ新聞や文化祭、釣りクラブなどの活動は、利用者の今までとは違った新たな一面を見られ、魅力の再発見に繋がった。利用者とともに思い出を創り上げることでできた1年だった。

■目標達成

"スタッフ" を大切に

働き続けられる支援

- ・一人一人に関わる支援
- ・利用者担当制
- ・仕事の成果としての工賃
- ・様々な機会の提供
- ・チームとしての活動

工賃 25,000 円到達

作業収入 UP

- ・クリーニング収入増
- ・新規受託先の開拓
- ・受託費の改善交渉
- ・施設外での就労

支援費収入 UP

- ・平均日利用者 36.3 名
(2019年度 35.6名)
- ・2019年度より **327** 名増

魅力再発見

やりたいことを実現

作業以外の取組みを实践

- ・企業見学、施設外での就労
- ・新聞部、釣りクラブ、KTK
- ・クリーニング慰労会
- ・年間表彰式

文化祭の実施

- ・新たなチャレンジ
- ・利用者が自ら企画し参加

- 活動
- ・コロナ禍における作業量増大
クリーニング個人洗濯物お預かり **23,550** 件 (2019年度 9,949件)
ビニールのガウン制作 (4,580枚)、布マスク制作

- 利用実績
- ・3月末時点での登録者 68名 平日稼働率 104%、土祝日稼働率 55%
 - ・新規利用者：8名
 - ・利用終了者：9名 希望や思いを聞きながら終了
 - ・平均利用者工賃額：**25,047** 円 (2019年度 20,770円)



特徴と強み

■利用者が「また来たい」と思える支援を展開

作業だけでなく様々な機会を提供することで、利用者の新たな魅力や能力を再発見し、活かす支援を実践できた。また、稼ぐことで自分らしい生活が実現し、不安定になりがちな方々も休むことなく利用ができるようになっていく。

2021年3月末 **1,044** 名利用

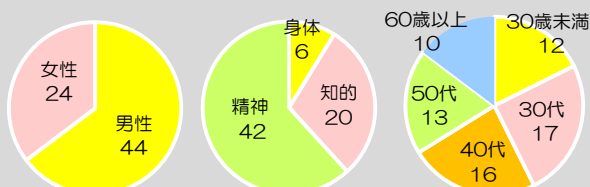
■工賃 25,000 円台に到達

クリーニングの作業収入はスウェルの総作業収入の3/4を占め大幅に増加、施設外就労への積極的な参加による増加や軽作業のエプロンの新規受注もあり、安定した作業収入が確保できている。

2019年度 全国B型平均工賃月額 16,369円

2019年度 高知B型平均工賃月額 20,005円

■参考資料 利用者状況 (名)



2021年度へ

《目標》

ひとりひとりの思いを明日、かたちに
～あいさつから始めよう～

《具体的な目標》

■あなたの夢を叶える

- ・利用者の夢を明日かたちにできる個別支援を行う
- ・チームとして利用者満足度 100%を目指す

■いかそう、得意なところを
さがそう、やりがいを

- ・「チャレンジしたい」と思える支援
- ・「しごとをしたい」と思える支援
- ・「また明日も来たい、楽しい」と思える支援

■つなげよう、明日へ

- ・地域と協力、地域で活躍できる場づくり
- ・各部署でのPDCAによる効果検証

相談支援

2020年度の取り組み

■総括 『寄り添い、伴走する支援』

サービスの更新やモニタリング以外での支援調整も多かった一方で、コロナ禍での支援となるため、自宅への訪問や関係機関との連携がより困難となり、タイムリーかつ柔軟に動くことが難しかった。その中でもお互いの業務の量であったり、担当している利用者の状況であったり、あらゆることをチームとして考え判断することにより、利用者の利益を最優先に考えられた一年であった。また、このコロナ禍であるからこそ、自分らしい生活、スウェルやOWNパスでの仕事を継続できるよう、利用者や家族の思いに良い添い、伴走する支援、笑顔が増える支援が実現できたのではないかと考える。

■目標達成

利用者を大切に

思いに寄り添い、伴走する

- ・利用者ファーストの視点
- ・利用者の思いを中心においた支援の展開
- ・必要に応じたタイムリーなサービス調整

相談支援の質の向上

適切なサービスの提供

- ・業務のスリム化
 - ・業務の見える化
 - ・チーム化
- ⇒利用者の利益を考えられる
⇒孤立・孤独から安心へ
⇒やりがい・達成感へ

業務の明確化

常に協働し、確認しあう

- ・一人一人に関わる支援
- ・様々な機会の提供
- ・様々な情報の提供

- 活動
 - ・文化祭での取り組み
 - ・高知市の研修会、連絡会に参加
- 利用実績
 - ・3月末時点での登録者：80名
 - ・新規利用者：1名
 - ・利用終了者：9名



特徴と強み

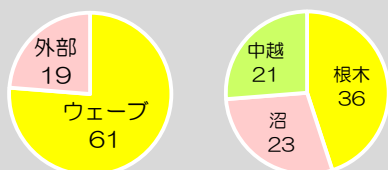
■サービスの適切な提供が可能

ウェブ利用者が多いため、サビ管や支援員とともにチームとして、時には広い視野で、専門的な視野で関わり、支援することができる。

■チームとして協働し確認し合える環境

業務を見える化し、チームで協働することを意識しているため、状況把握がお互いに可能となった。それにより、担当者自身の孤立感や困り感にも共に対処することができるようになっていく。

■参考資料 利用者状況（名）



今後もウェブを利用されている方を中心に支援を実施していきたいと考えており、現在ウェブを利用されていない方に関しては丁寧にウェブ以外の相談支援事業所に引継ぎを行っている。

2021年度へ

《目標》

みんな輝け、にじいろ応援団

《具体的な目標》

■にじいろの関わり

- ・利用者の思いに寄り添い、幅広い知識で支援

■じぶん自身の研鑽

- ・まねび、まなぶ
- ・権利擁護、権利侵害について学ぶ
- ・市町村などの定例会への出席

■いろいろな業務の確認

- ・常に協働を心がけ、1ヵ月単位で更新やモニタリングを確認、進捗状況を明確化



高知ハビリテーションセンター 事業報告

センター長 西岡由江

はじめに

2020年2月、新型コロナウイルス感染症は世界中に拡大し、4月には高知でも緊急事態宣言が出され、以後感染予防に細心の注意を払うとともに高知ハビリテーションセンター（以下、ハビリ）では全事業を休止することなく運営することが出来ました。コロナ禍というピンチをチャンスに変える発想でマスク作成の仕事作りや、食のイベント、ドライブインシアターなど新たな形の支援が生まれた1年でした。その状況下で、ハビリのセンター長として3年目を迎え、“新生ハビリ”を掲げ、全職員と共に変革の波を乗り越えてきた時間であったと思います。2020年度の報告ではありますが、2018年度からの流れと共に報告したいと思います。

事業実績概要

2018年9月のセンター長交代時は、稼働率が高く経営的にも安定しているように見えていました。稼働率を上げるため、どの事業も”来るもの拒まず”で受け入れおり、職員の対応能力以上の障害特性を持った利用者が存在し、現場では救急搬送、利用者トラブル、苦情、職員の疲弊や離職が相次いでいました。この3年間は、管理体制の見直しと業務改善から始まり、支援力強化・人員不足の解消に努め、現実には即した業務形態への移行を行いました。（表1参照）

【障害者支援施設】

2018年度は2つの委託事業を終了し、2019年度は回復期リハビリテーション病院等への営業とニーズ調査を基に障害者支援施設の日中活動（③機能訓練/④生活訓練/⑤生活介護）の利用定員の見直しを行いました。稼働率が①施設入所 58.1%、③機能訓練 54.3%、④生活訓練 48.9%と低下しましたが、営業努力と入退所管理（ベッドコントロール会の定期開催1回/週）を可視化することで、2020年度は施設入所 71.9%、機能訓練 89.5%、生活訓練 81.3%まで回復することができました。⑤生活介護は徐々に低下し2020年度は56.8%まで低下しています。機能訓練や生活訓練の有期利用内での地域移行が難しいケースの待機利用として4床空けていましたが、一人も利用することなく地域移行できた為使用することはありませんでした。来年度は地域からの紹介ケースを受け、空床を埋め稼働率を上げていく予定です。

【アルベータ就労支援事業】

2018年度の⑥就労B型は111.4%と定員を超える稼働でした。稼働率が高く多様な障害者が通所する就労B型でしたが、なかに重度障害者が混在しており本来の配置（7.5対1）では対応ができず、就労支援より個別生活支援が必要でマンツーマン対応が求められている現状がありました。そこで2年をかけ、重度障害者の日中活動場所（当センター生活介護）の移行を丁寧に行い、2020年10月に定員（50名から40名へ）変更しました。同時に利用者の就業時間・工賃評価・定年制度の見直し等をすすめ、就労B型として「働いて稼ぐB型」を目指す基盤を作りました。これまで事業の終了や縮小が続きましたが、⑦就労移行の一般就労移行率の業績が上がり、繋いだ先での定着支援の必要性が課題となった事に対し2019年10月より就労定着事業を開設し働く支援の充実をはかる事ができました。

【はるのハビリホーム】

⑨共同生活援助の稼働率低下は空床を埋めることが出来なかったことが要因です。多様な障害特性に対する支援力が未熟であり、慢性的な人員不足も重なり新規入居者を入れることが困難な状況でした。そこで2021年4月には外部サービス利用型に類型変更し利用者が安心・安全に生活を送れる環境を整え新規入居者を獲得していく予定です。

【キュール】

⑩放課後等デイサービスの稼働率低下は、2020年度上期のコロナ感染拡大の影響で休校や通所の自粛が続いた事によるものと考えられます。感染対策の徹底と学校やご家族との連携にてコロナ禍であっても安心

して利用できる環境を整えることで下期は稼働が上がっており、2021年度も新入生3名が4月から利用を開始する予定です。

表の下段は、実現可能な稼働率として2020年度実績から2021年度の目標稼働率を導いています。決算上では、法人全体で2019年度-4600万円、2020年度-1200万円の赤字決裁となっていますが、支援サービスの質の向上をはかり、利用者を安定的に確保し、収益を向上させる見通しを計画しています。

表1. 高知ハビリテールディングセンター 1ヶ月あたり平均延利用者数・年間平均稼働率(2018~2020)

		障害者支援施設				アルバイト			はるのハビリホーム	キュール	相談支援事業所		変更内容	
		①施設入所 定員40名	②短期入所 店員2名・空床	③機能訓練 定員25名	④生活訓練 定員9名	⑤生活介護 定員6名	⑥就労B型 定員50名	⑦就労移行 定員10名	⑧就労定着 定員なし	⑨共同生活援助 定員38名	⑩放課後等 デイサービス 定員10名	⑪特定相談 定員なし		⑫障害児相談 定員なし
2018年度	延利用者数	1033人		426人	178人	155人	1443人	257人	—	1024人	261人	30人	8人	・センター長交代 ・委託事業の終了 高次脳機能障害支援普及事業 若年性認知症就労支援事業
	稼働率	84.9%		69.1%	80.8%	93.5%	111.4%	108.3%	—	93.5%	102.5%	—	—	
2019年度	延利用者数	709人		286人	117人	135人	1281人	247人	3人	1006人	251人	26人	6人	・7月~定員変更 (機能訓練、生活訓練、生活介護) ・10月~就労定着支援事業開始
	稼働率	58.1%		54.3%	48.9%	81.5%	99.8%	103.4%	—	91.7%	97.3%	—	—	
2020年度	延利用者数	869人		402人	185人	128人	1140人	229人	8人	853人	233人	15人	2人	・10月~定員変更 (就労B型)
	稼働率	71.9%		89.5%	81.3%	56.8%	96.1%	104.9%	—	78.0%	88.3%	—	—	
2021年度	目標稼働率	78%		100%	95%	64%	110%	113%	—	87%	88%	—	—	・4月~類型変更 グループホーム 「外部サービス利用型」

組織運営と人材育成

9つの事業を3部門に分け部長直轄の運営を実施し、部署自体に権限と裁量を付与することで、意思決定や緊急時の対応など業務がスムーズに遂行できるようになりました。また、適切な対処もすぐに行われることで利用者・家族からの信頼や感謝の声が聞かれ始めました。しかし、各々の事業に集中してしまうことで、部署を超えた交流の必要性が低くなる傾向がおこるため、委員会活動の見直しと定期開催、主任会やサービス管理責任者会など同じ立場の職員が集まる時間を確保、ハビリ美化活動デーと称して参加できるスタッフ全員でハビリの芝刈りなど一緒に汗を流す機会をつくりました。職員教育においては、外部での研修機会が難しくなった為オンラインでのeラーニング教育に切り替えて継続した教育を行いました。2020年度の職員退職者数は9名(2018年度16名/2019年度9名)、入職者は12名でした。採用後教育として約1~3ヶ月間の社福全体の事業実務研修を実施し、後に適正に応じた配置を行い、教育担当スタッフ中心に入職した職員の持っている能力が発揮できるよう丁寧な指導にあたっています。

これまでの約3年間の経過の中で、職員の退職・事業の縮小など組織が後退しているように感じる時期もありましたが、その危機から逃げず組織全体で様々な創造的な企画や変化を取り入れ、新生ハビリの基礎を作り上げることができました。次年度は、基礎の上に利用者も職員も笑顔で過ごせる場所を作り上げていきたいと考えております。

機能訓練

2020年度の取り組み

■総括

2020年度は医療機関からの新規依頼がコンスタントにあり、1年間を通して定員数20を超える登録者で運用できました。特に施設入所を併用する利用者に関しては、本人・家族・当施設以外の支援者と目標や次の方向性を共有し、有期限内に必要な支援を提供するよう努めました。また休止となっていた部会の再開、新設した機能訓練独自の勉強会や担当支援員が司会を務めるケース検討会の開催など、支援員1人ひとりが事業の方向性を認識し、利用者の事をより真剣に考える体制づくりができました。

■目標達成

自己決定の促進

- ・視覚支援やiPad活用
⇒訓練成果（歩行距離向上）や課題を職員と利用者が共有
- ・社会資源の具体的な提示
⇒住居と日中活動について利用者が選択する機会の増加

支援員の教育体制の充実

- ・15時以降の有効活用
⇒部会の定期開催により具体的な解決を図る組織風土
- ・個別担当制の促進
⇒勉強会やケース検討会の事前準備や司会を通して1人の利用者の支援を深める

地域生活や就労への移行

- ・地域生活の現実に向かう準備
自働車運転訓練や家屋評価など
⇒地域生活移行率100%
- ・就労支援
⇒復職1名、就労移行2名

- 利用実績 ・新規利用者 13名
- ・利用終了者 8名

■機能訓練勉強会の実績

テーマ（開催月）	
対麻痺について（5月）	サビ管業務の理解（10月）
接遇について（6月）	片麻痺者の動作①（11月）
脳卒中について（7月）	片麻痺者の動作②（12月）
高次脳機能障害（8月）	車椅子・装具（1月）
障害者総合支援法（9月）	機能訓練の加算（3月）



機能訓練勉強会

家屋評価

特徴と強み

・県下唯一の機能訓練施設

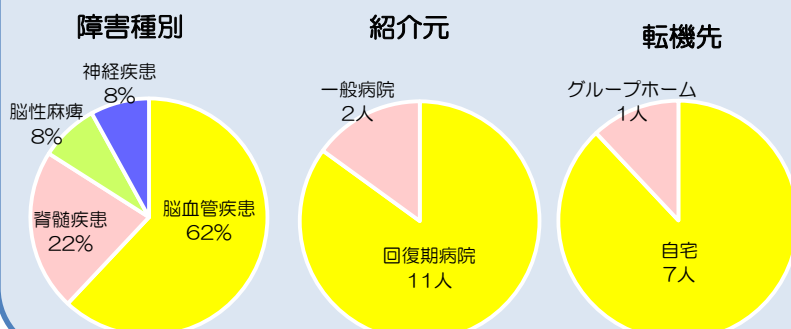
1年半の期間を活かした継続的な機能回復訓練に加え、家事、外出、公共交通機関の利用などの実生活をイメージした課題解決型のプログラムにより地域生活への復帰をサポートします。

・就労を軸とした最適な日中活動に導く

就労準備型の訓練プログラムの充実や多機能施設の利点を活かして、壮年期の方が社会の中でより生きがいをもった日中活動の利用ができるよう支援します。

【新規利用者13名】

【終了者8名】



2021年度へ

《目標》

原点復帰

利用者の自己決定のもと自立生活と本人の望む社会参加を支援します

《具体的目標》

■自己決定ができる訓練プログラム提供

- ・訓練成果の可視化を促進
- ・成果や課題を利用者と共有

■自立生活の獲得を支援

- ・障害があっても自分らしい生活を送ることができるよう生活に直結する評価と訓練実施
- ・利用者の24時間の生活をイメージした支援

■地域生活や就労に繋げる支援力強化

- ・就労に必要な能力評価とプログラム実践
- ・就労事業への移行促進と法人内連携の強化

生活訓練

2020年度の取り組み

■ 総括

2020年度は機能分化後の新たな環境におけるプログラム内容の充実に努めました。また、個別訓練とグループ訓練の区分分けを明確にした環境設定、支援を行いました。より社会生活に近い訓練内容を提案・実践し、実生活で活かせる生活能力の向上に重きを置きました。

■ 目標達成

障害特性に合わせたプログラムの充実

- **基本支援プログラムの確立とスケジュール化**
⇒日常生活能力・自己管理能力・社会生活能力・自己理解・地域生活移行などを旨す
- **ハビリの環境を活かした園芸活動**を計画的に実施

訓練室外での活動を充実

- **実生活場面**におけるプログラムを**入所職員と協働で実施**しリアルな生活へ(調理、掃除、入浴等)
- 目的のある**外出訓練**を利用者と一体で企画・評価
- 就労事業との連携で、生活だけでなく**働く希望を叶える**支援の実施

地域のニーズに準じた事業運営

- 医療や福祉との連携を行い、地域のニーズに準じた事業運営を実施し利用者数が増加しました(**医療観察処遇患者の受け入れ**)
- 稼働率の上昇

園芸活動



調理訓練



就労準備課題



2名の成人式挙行



特徴と強み

- **日常生活能力の評価と獲得**
ADL・IADLの評価から獲得までを利用者と共に考え、支援します。また、調理訓練や清掃などを通し実生活をイメージできる支援を行います。
- **社会生活力の向上**
管理能力や社会的スキル、問題対処方法など、実生活場面を想定した訓練を提案、実施しています。
- **地域での生活づくりの準備**
地域での生活を本人と共にイメージし、利用できるサービスや心身機能のケア、日中活動など、本人に即した生活スタイルを考えます。その他、住環境検討や進路に至るまで、その人らしい生き方を一緒に模索します。

2021年度へ

《目標》

「個」から「集団」、そして「社会」へつなげよう
～社会の一員であることを意識し、
自己実現へ向けて歩む心を支援します～

《具体的目標》

- **障害特性に合わせたプログラム提供**
 - 支援の基本プログラムの確立とスケジュール化
 - ハビリの環境を活かした園芸活動を計画的に実施
- **訓練室外での活動を充実**
 - 実生活場面におけるプログラムを実施し、リアルな生活へつなぐ
 - 目的をもった外出活動の実施
 - 働く希望を叶える支援を行う
- **地域のニーズに準じた事業運営**
 - 医療や福祉との連携を行い、地域のニーズに準じた事業運営を実施
 - 稼働率 100%の事業運営を行う

生活介護

2020年度の取り組み

■総括

2020年度の生活介護は、自閉症・知的障害をもつ利用者に対し、生活介護での日中活動支援と入所での生活支援を一体に行うよう体制を変化させました。障害特性に合わせた個別支援の提供を基本に、室内作業・屋外作業を組み合わせた支援を充実させました。

■目標達成

個性を最重要視した
オーダーメイド支援

- ・障害特性の理解を深める研修参加(強度行動障害)
- ・予定をスケジュールに組み込みわかりやすく提示(視覚支援)
- ・家族との連携を意識し、家族の要望も課題として取り組める工夫を行った。

施設内活動の充実

- ・障害特性に応じた個別課題提供
- ・自室で取り組める課題の提供
- ・健康管理・金銭管理の手伝い
- ・自立に向けた自室清掃練習
- ・農作業を通じた全身運動

通過型としての在り方を模索

- ・作業を通し利用者の強みを把握
- ・他施設の職員の見学実施
- ・自閉症・知的障害の方への作業提供の工夫
- ・家族との連携を密に行い、ニーズを理解し、評価を伝える。

■利用実績

- ・新規利用者：3名(就労継続支援B型より移行2名・生活訓練より移行1名)
- ・終了者：6名(通所2名・ショートステイ併用4名)

■支援の様子

スケジュールの
視覚支援

個別課題

自室課題
(手指訓練)

自室清掃練習



農作業



特徴と強み

・利用者の障害特性に合わせた支援

天候による予定変更などに対応できる方には屋外作業を提供し、長い目で評価し就労に向けステップアップできる可能性を高めています。

予定変更が苦手な方や働くことへの動機づけが難しい方には屋内で余暇的な活動や認知面に働きかける活動を提供している。状況に応じ外作業の導入を心がけています。

・生活支援と一体的な運用

健康管理や室内の清潔、金銭管理等一人では難しいことに対して昼夜を通し支援しています。

障害特性に応じた対応の統一化、問題が起こった時の迅速な対応を行います。

・通過型ならでの支援

苦手なこと、得意なことを理解し、強みを生かせるよう支援します。

2021年度へ

《目標》

いつもの場所でいつものように
安心・安全な生活の実現を支援

《具体的目標》

■個性を重要視したオーダーメイド支援

- ・障害特性・個性に合わせたスケジュールの立案
- ・支援のポイントを施設入所職員と共有
- ・家族と連携し、現状維持からステップアップへ

■施設内活動の充実

- ・居室内で実施できるプログラムの発掘
- ・余暇活動の提案

■通過型施設としての在り方を模索

- ・その人らしさが発揮できる場所へ繋ぐ
- ・地域の社会資源と顔をつなぎ移行先の選択肢を広げる

施設入所

2020年度の取り組み

■総括

新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた一年でしたが、施設入所に必要な体験利用を継続することで昨年度よりも安定したベッドコントロールを行うことができました。利用者の中には褥創処置やけいれん発作などの医療ケアが必要な状況がありましたが、早期発見と医療機関との情報共有や受診など必要に応じた対処ができました。ケアの質向上に関しては、創傷ラウンドを週1回開催することで処置方法の統一、除圧やポジショニングに対する事業所間の情報交換の促進と実践に繋がりました。加えて、利用者の身体特性に合わせたノーリフティングケアの用具を導入することで、利用者には安心・安全を、職員間においてはケアの統一と腰痛の軽減に繋がりました。

■目標達成

生活場面における自己決定支援

- ・個別担当制の促進により、利用者の退所後の生活について日中事業と検討、協働が増えた。
⇒利用者へ提案し意思確認を行った上で実際の支援に活かすことができた。

教育体制の充実

- ・新たな主任のもと看護師2名が配属され教育体制は更に充実。
- ・毎月全職員参加の部会を開催し情報共有やケーススタディ、勉強会を実施
- ・e-ラーニングの活用

支援者の身体的負担軽減

- ・ノーリフティングケアの用具導入と使用方法の職員間統一を図り負担軽減に繋がる。



- 利用実績
 - ・新規利用者：18名
 - ・利用終了者：8名（地域移行率88%）
 - ・体験利用者：のべ15名（そのうち、のべ14名は新規利用開始）

■短期入所延べ利用者数の推移



特徴と強み

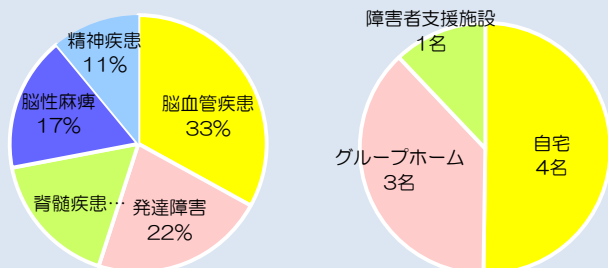
・体験利用を積極的に活用

当施設入所前の体験利用は今後も継続します。利用者にとっては実際に施設を体験することで入所後のイメージができ、職員は利用者の特徴を知ることにより、細やかな評価や入所後の支援について検討することで、スムーズな移行が可能になります。

・多様な障害に対応

身体障害のみならず知的・精神・発達障害等の幅広い疾患を持つ利用者の24時間を支えています。

障害種別（新規利用者） 18名 転帰先 8名



2021年度へ

《目標》

原点に戻り施設入所の役割を再確認
退所後をイメージした支援を行います！

《具体的目標》

- 退所後の生活をイメージした支援
 - ・ハビリで身についた生活習慣を退所後も地域で継続できるよう各職種と連携し支援
- 障害特性について理解や知識を深める
 - ・外部研修を取り入れ、施設での勉強会に参加し理解や知識を深めるよう努める
- 各部署との連携強化
 - ・コロナ禍でも安全に楽しく施設で行えるイベントを考え提供する
 - ・利用者の家屋訪問や施設見学に同行し、他部署とも意見交換する

就労移行支援・就労定着支援

2020年度の取り組み

■ 総括

コロナ禍の為、職場実習や雇用の受け入れを控える傾向にあり、新たな職場開拓や関係機関への営業活動が積極的に行えなかった1年でしたが、アフターフォローや就労定着支援により、これまで築いてきた企業や関係機関との関係性をより深める事に重点を置き、利用者のニーズに沿って地道に職場開拓を行った事で就労に繋げる事が出来、今年度の数値目標は達成する事が出来ました。

■ 目標達成

関係機関との連携強化

- ・既存の就労先や関係機関との繋がりを強化
- ・職場からのSOSに迅速に対応

就職率・職場定着率の維持向上

＜就労移行＞
 ・6ヶ月定着率（定員比）：**60%**
 ＜就労定着＞
 ・就職者の6ヶ月定着率：**100%**
基本報酬最高額を維持（単価）
 就労移行：502～1,094
 就労定着：1,045～3,215

支援力強化

- ・訓練項目毎に評価表を視覚的に示す事や動画撮影等による見える化で職業評価を共有
- ・ケース検討会の実施

■ 活動

- ・スピリットアート展（立体部門）で入賞
- ・利用者企画により年末イベント（クリスマス運動会）を開催
- ・県の委託業務（DM 発送作業）継続



スピリットアート展
入賞作品

■ 利用実績

- ・新規利用者：3名
- ・利用終了者：9名（8名：一般就職、1名：利用中断）
- ・就労アセスメント：5名
（江ノ口特別支援学校、高知大附属特別支援学校、若草特別支援学校）
- ・職場実習企業数：9社（内、新規企業4社）

特徴と強み

・就職に繋げる為に

実践訓練を重視し、利用者の適性に合わせた職場実習を積極的に実施

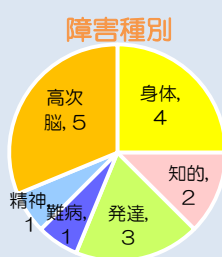
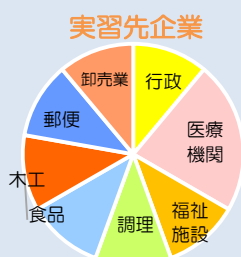
実習実績：10名（9社）

・就労継続の為に

雇用前の職場実習でマッチングを慎重に実施
 アフターフォロー、就労定着支援で就職後もサポート

・支援力

利用者の状況に合わせてプログラムを随時見直し
 定期ミーティングと、必要時に迅速なケース会を実施
 職場でのトラブルにフットワーク軽く対応



2021年度へ

《目標》

他機関との連携を重視し
 障害者一人ひとりが活躍できる社会に！

《具体的目標》

■ 職場開拓・関係機関連携

ニーズ分析による積極的な営業活動

■ 就職率・職場定着率の維持向上

基本報酬最高額を維持

【就労移行支援】

定員に対する6ヶ月定着率：50%以上

【就労定着支援】

定着率：95%以上（転職支援含む）

■ 支援力強化

研修への参加
 ケース検討
 他機関との連携
 形にはまらない支援の構築
 就職後のフォロー体制強化

就労継続支援 B 型

2020 年度の取り組み

■ 総括

就労支援に特化した就労継続支援 B 型として、昨年度に土台づくりを行い、新たな就業時間、利用日数での運用を開始し、10 月には定員変更を行い、目指すべき B 型に向けて支援強化に努めました。

また、スキルアップの機会や施設外支援、加算支給等の仕組みを導入し、様々なチャレンジの場を準備する事が出来ました。コロナの影響で取引先によっては受注が減った時期もありましたが、スタッフ全員で新規作業の開拓や新たな作業に取り組み、ジョブローテーションだけでなく、共同で取り組む作業を行う等、よりチームワークを意識した 1 年でした。

■ 目標達成

協力し合える職場づくり

- ・ **職員、利用者ともにジョブローテーション**
⇒利用者：協力する意識、出来る作業向上へ、自主性の向上
職員：交代で施設外支援へ
- ・ 支援以外の時間を有効活用
⇒利用者情報の共有・検討

支援力強化により達成感と工賃アップ

- ・ **評価制度を見直し**、具体的な課題・目標の共有と工賃向上に向けたシステム構築
- ・ **新作業を開始**
ナイトブラ、競馬場清掃（施設外支援）
- ・ お掃除隊の見直し
- ・ 加算の導入

社会人として楽しむ

- ・ コロナ対策を行い、年末の食事を企画
- ・ 作業工程の見直しや利用者が様々な作業を習得する事で効率的に

■ 活動

- ・ ピザパーティ

《新作業》

■ 利用実績

- ・ 登録利用者： 64 名
- ・ 新規利用者： 2 名
- ・ 利用終了者： 11 名
- ・ **平均工賃額：15,861 円**

競馬場清掃



ナイトブラ



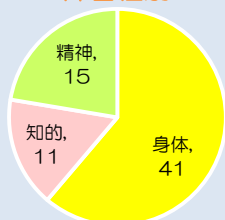
新制お掃除隊



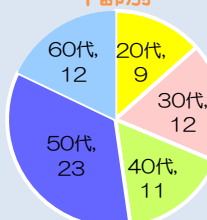
特徴と強み

- ・ **スキルアップを支援する体制**
一般就労を見据えた社会性・技能獲得を目的としたお掃除隊として再始動
所属科を超えて様々な作業にチャレンジ
- ・ **ステップアップが出来る環境**
就労移行支援への移行や一般就労に向けてサポート
⇒ 就労移行支援へ移行：1 名
一般就労へ移行：1 名
- ・ **収入アップへの道**
お掃除隊や施設外支援に加算を導入
土曜日開所、取引先のニーズに応じて営業
既存取引先との契約継続、新規取引先増

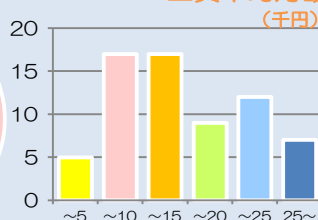
障害種別



年齢別



工賃平均月額 (千円)



2021 年度へ

《目標》

今日より明日、変化を楽しみ
利用者とともにスキルアップ出来る職場へ

《具体的目標》

- **協力し合える職場づくり**
 - ・ 全作業におけるジョブローテーション
- **スキルアップと工賃アップ**
 - ・ 売上アップ：クリーニング業務拡大
人員増、加算導入
 - ・ 稼働率維持
 - ・ 平均工賃：17,000 円 (3 年後 20,000 円へ)
利用頻度・時間増を支援
評価制度を定期的を実施
 - ・ 一般就労、就労移行支援へ
- **社会人として楽しむ**
 - ・ 忘年会や交流イベントの開催
 - ・ 利用者向けの研修の実施

共同生活援助

2020 年度の取り組み

■ 総括

コロナ感染対策を強化し感染者を出さないことがグループホームとして最優先の取り組みでした。長期化する感染対策や外出の自粛など不自由な生活の中、どうすれば『安心して暮らす』を実現するか苦慮する1年となりました。そのような状況下で出来ることに注力し、買い物支援や、受診同行による病状への介入など個別に応じた支援を実践しました。

グループホームを開設し11年が経過し、当初担っていた身体障害者の入居サービスから、法改正が繰り返される中で精神障害者、知的障害者、難病者と様々な障害特性に応じた生活支援が求められるグループホームに変化してきました。また、高齢化社会における人材不足が当ホームでも課題となり、利用者の生活に不利益がない様に環境調整し、2021年度は類型変更を行い入居者の生活を24時間体制で支え、安心、安全な生活を提供し、個々の入居者が充実していると思えるグループホームを目指します。

■ 目標達成

家族感、季節を感じられる
イベントや環境づくり

- ・ 集団行動を回避したため、家族感や季節を感じられるイベントに注力することができず、**グループホーム内で季節ごとの装飾**を実施

生活スキルの向上

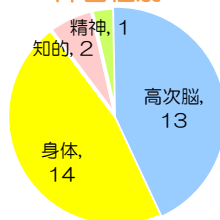
- ・ **受診や買い物**など生活を送る上で必要なスキルを身に付けられるよう**同行支援**を実施
- ・ 利用者の書類作成や業者への連絡の補助を支援し自立へ

コロナ感染対策の徹底で感染者
ゼロを目指す

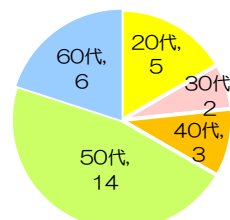
- ・ **コロナ感染対策の徹底**
⇒ 毎日の健康（体温）チェック
⇒ 共有ゾーンの環境設定
⇒ 感染対策を可視化して掲示
⇒ 丁寧な説明と自粛協力

■ 利用実績 ・登録利用者：30名（空床6）

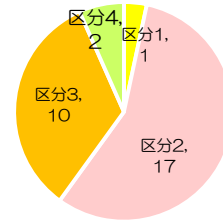
障害種別



年齢



障害支援区分



・ 新規利用者：3名（在宅3）

・ 利用終了者：9名

（施設入所へ移行4・他GH1・障害者支援施設1・在宅1・単身アパート1）

特徴と強み

・バリアフリー環境

全室車椅子対応



自律を目指すマンションタイプ
貸駐車スペース新設

・住むことだけでなく、働くことへのサポートが充実
アルベータB型/アルベータ移行（就労定着）

・隣接する障害者スポーツセンターとの連携

いろんなジャンルのスポーツやレクリエーションにチャレンジすることで、健康の保持増進と社会参加の促進

・身体介護のプロによる身体ケアの提供

2021 年度へ

≪目標≫

現実に即した類型変更を行い
『安心・安全』と『充実』
を提供できるホームに

≪具体的目標≫

■ 同意と説明

- ・ 類型変更「外部サービス利用型」への説明と同意
- ・ 個々の状態に合わせた「支援計画」への説明と同意を得る

■ 支援の質の向上

- ・ 定期的な世話人会の実施
- ・ 支援内容記録の統一と伝達を確実に実施
- ・ 保護者やかかりつけ医との連携強化
- ・ コロナ感染対策の徹底で感染者0

■ 地域で暮らす楽しみを発掘

- ・ コロナ禍でも楽しめるイベント企画
- ・ “やってみたいこと”一緒にチャレンジ
- ・ 障害者スポーツセンターの企画への参加

放課後等デイサービス

2020年度の取り組み

■総括

就労準備型放課後等デイサービスの開設や連絡帳アプリ『キッズリー』の導入など新たな取り組みを開始しましたが、新型コロナウイルスの出現などにより活動への制限を余儀なくされる1年となりました。しかし、「コロナだからできない」から「どうすれば出来るか？」に考えをシフトチェンジさせ、職員一同、児童の安全を最優先に新たな発想と企画力で様々な取り組みを提供し、チームとして乗り越えることが出来たと感じております。

■目標達成

楽しみながら働く基礎を身に付け、未来に備える

- ・土曜日、長期休業日を軸にして【Life】【Communication】【Work】を柱に活動を展開。
- ・各プログラムへ担当を決め多様な活動展開。児童と共に作り上げる活動を念頭に、児童主体となる形で開催

安心して楽しく過ごせる場を提供する

- ・児童一人一人に合わせた課題設定
- ・季節の掲示板作成やハロウィン等のイベント開催
- ・学校、保護者との情報共有
⇒『キッズリー』導入
⇒『業務改善』につながり現場の児童支援充実。

横の活動を活かした活動を行う

- ・就労準備型では上半期の座学やグループワークを経て、グループホームや就労支援事業所の見学など行うことが出来た。



■利用実績

- ・登録利用児：39名 ・新規利用：2名 ・年間のべ利用児数：3,068人（年間稼働率約 95%）
- ・利用終了：6名（高校卒業4名、事業所変更1名、学校転校1名）
↳【一般就労1名、就労継続支援A型1名、就労継続支援B型1名、生活介護1名】

■新たに取り組んだ活動

- ・ピザ窯を使用したピザ作り
- ・ドライブインシアターの開催
- ・新年最初の書初めイベント
- ・保護者参加型イベントの開催
↳（音楽療法や親子BBQなど）

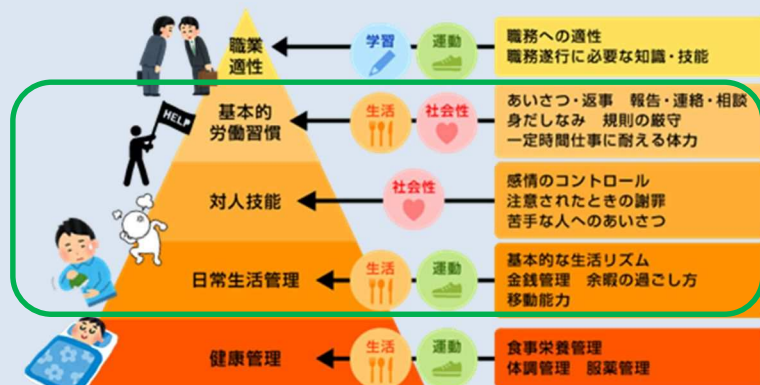


※その他、コロナ禍でも開催できるように従来のイベントについても『楽しさ』と『感染予防』を両立させ開催。

特徴と強み

・キュールの強みとなる支援環境

- ① 就労支援等の多様な事業所が身近
⇒施設としての様々なハード面の充実/各事業との連携
- ② 芝生、裏山の畑など自然豊かな環境
⇒四季豊かな活動、児童のクールダウンとしての環境
- ③ 障害者スポーツセンターの隣接
⇒各種出前教室や屋外活動の充実



※強みを活かし、上記緑の範囲について重点的に支援を行い、就労へ備える。

～子ども達の『できない』→『できる』へ～

2021年度へ

《目標》

ハビリ内事業連携で、キュールの強みを最大限発揮
新たなサービスの創出を行います

《具体的目標》 3つの『キョウ』

- 協力：他事業との連携
・短期・中期・長期的年間活動計画を立て、他事業との連携を入れた計画の作成と実践
- 強化：職員の専門性獲得
・外部研修後の他職員へのフィードバックを行うと共に、部内研修を開催し専門性の強化を実施
- 共有：チームとしての支援へ
・積極的なケース会の開催から、児童の理解、課題の表出、評価を経て子ども達の「できない」→「できた」を見つけていく

相談支援事業

2020年度の取り組み

■総括

支援員2名から1名体制に変更するにあたり、引継ぎによる関係機関への対応を丁寧に行いました。業務整理を行い、時間管理や業務の効率化を行った事で時間に余裕を持って業務に取り組む事が出来、利用者一人ひとりに丁寧に対応する事が出来ました。コロナ禍で訪問等を控えた時期もありましたが、利用者、関係機関と密に連絡を取り合う事で情報共有の軸になれたと感じています。来年度に向けて相談支援の質を上げていく為の基盤が出来た1年でした。

■目標達成

自己実現をサポート

- ニーズの把握
⇒丁寧な聞き取りによる**利用者の思いやニーズの引き出し**
- 適切な情報提供
⇒選択肢の幅を広げる事で将来を具体的に考える機会を提供

相談支援の質の向上

- 相談支援事業所連絡会へ参加
⇒制度等の情報収集
- 研修会、オンライン研修へ参加
⇒特に児相談支援を学習
- コロナ禍での支援
⇒密な連絡による情報共有

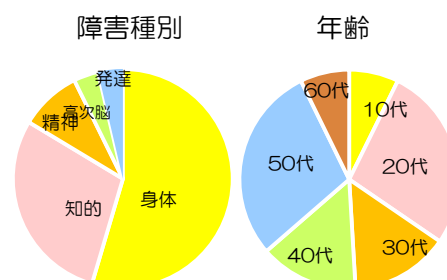
働きやすい環境作り

- 予定、進捗状況の可視化
前月中に訪問、担当者会、書類作成全てをスケジュール化
日報で各業務の終了状況を把握
- 業務の効率化
各業務の所要時間(目安)を算出し、作業時間を意識
- 就業時間内で業務を完結

■相談実績(2021年3月31日現在)

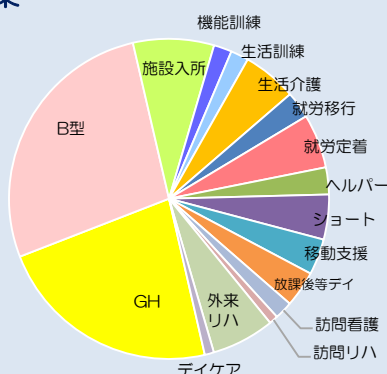
	障害者	障害児
現登録者数	51	4
計画作成数	50	5
モニタリング作成数	127	4
新規利用者数	3	0
終了利用者数	13	0

登録者内訳



特徴と強み

- 障害児から障害者までトータル的にサポート
障害児から者まで一貫して関わる事で、軸がぶれずに支援を展開
- 同法人内に相談支援事業所がある事でタイムリーに相談、サービス調整が可能
- 様々な福祉サービス、ケースに関わる事で多角的な方向性を提案



2021年度へ

《目標》

点から線、そして輪へ
支援の力をひとつにし、自分らしい生活を支えます！

《具体的目標》

- 一人ひとりの自己実現をサポート
 - 時間軸を意識した視覚的スケジュール提示
- 相談支援の質の向上
 - 他機関の調整、連携
 - モニタリング時期の見極め
 - 児童ケースの強化
- 効率的な業務の継続
 - 新規ケースの受け入れ
 - ケース件数目標(1ヶ月平均)
計画・モニタリング合計: 25件

感染・安全衛生委員会の取り組み

■総括

定期的な安全衛生委員会により作業管理、作業環境管理、労働衛生の確認をして頂き適宜ご指導を頂きました。新型コロナウイルスの感染予防対策については感染委員を中心にマニュアルの作成、シミュレーションの実施等を行い、体調不良者に対する早期の対応で、利用者、職員ともに感染0で終える事が出来ました。

■安全衛生委員会

・実施状況

	実施日
第 1 回	2020 年 4 月 16 日
第 2 回	2020 年 5 月 21 日
第 3 回	2020 年 6 月 18 日
第 4 回	2020 年 7 月 16 日
第 5 回	2020 年 8 月 20 日
第 6 回	2020 年 9 月 17 日
第 7 回	2020 年 10 月 15 日
第 8 回	2020 年 11 月 19 日
第 9 回	2020 年 12 月 24 日
第 10 回	2021 年 1 月 21 日
第 11 回	2021 年 2 月 18 日
第 12 回	2021 年 3 月 12 日

- ・実施内容
 - ・職員の健康状況（感染症・メンタルヘルス含む）を報告し必要に応じて助言を頂いた
 - ・前回指摘事項に対する改善状況を報告
 - ・安全衛生に関する資料や情報提供
 - ・施設内巡視

■感染委員会

- ・実施回数：5回（5月8日、13日・8月・11月・12月）
- ・実施内容
 - ・吐物処理手順、ガウンテクニック講習（11月）
 - ・マニュアル作成（コロナ感染対策・BCP）



■体調不良者状況

インフルエンザ	0名
ノロウイルス、疥癬、風疹	0名
メンタルヘルス	0名
労災	0名
PCR 検査（陰性）	職員：1名、家族：5名、利用者：1名
コロナ抗原検査（陰性）	職員：0名、家族：3名、利用者：0名

- ※ 毎日の健康チェック表、体調不良報告書（職員・利用者用）を改訂
- ※ 県外への外出については、県外移動申請書を提出し承認を得て実施。
外出後2週間は体調チェックを実施

2021 年度へ

- ・毎日の体調確認と感染対策を行い、利用者・職員ともに健康を維持し事業運営を行っていきます。
- ・安全衛生委員会を定期的に関催し、必要に応じて改善を行っていく事で作業環境の整備に努めます。

地域交流委員会の取り組み

■総括

2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、秋祭りをはじめとする春野地域との交流に関するイベントは中止を余儀なくされました。しかし全てを自粛するのではなく、「コロナ禍でも安心・安全に楽しむ」をコンセプトに下記のようなイベントを実施し、季節感を感じたり、利用者の満足度向上に繋がるようなイベントを実施しました。

■開催イベント一覧

実施日時	イベント名	内容
4月～5月	端午の節句	五月人形・鯉のぼり飾り
7月7日	七夕イベント (どっちの料理ショー)	うな丼/カツ丼選択・七夕飾り
8月～11月	Tシャツアート展	Tシャツのデザイン,写真撮影展示、表彰
11月3日	第1回テイクアウトイベン	イベント食提供、ゲーム
12月～翌年1月	クリスマスイルミネーショ	イルミネーション飾りつけ
2月～3月	ひな祭り	ひな人形の飾りつけ
3月26日	美化活動	全事業の職員が参加し施設内外の清掃活動
2021年4月 2日	第2回テイクアウトイベン	イベント食提供、ゲーム,抹茶のふるまい



Tシャツアート展



テイクアウトイベント



クリスマスイルミネーション

■地域交流委員会

実施回数：16回（毎月1回＋臨時委員会4回）

実施内容：イベントの企画、振り返り、イベント開催直前の打ち合わせ

2021年度へ

- ・マンネリ化しないように新たなイベントを企画します。
- ・ハピリでのイベントとして職員全体に周知し、協力依頼を早い段階で投げかけていきます。
- ・情報共有の体制を整えて委員会運営を円滑にします。
- ・コロナ禍でも地域住民と繋がる機会を模索します。

災害対策委員会の取り組み

■総括

2020年度、定期的に委員会を開催し、日中・夜間・火災・地震災害といった状況に合わせた避難訓練を計画、実施することができました。また、BCPの更新（非常食の在庫確認、参集名簿の更新など）や、賞味期限が迫った備蓄食の試食提供など、職員と利用者が共に危機意識を高めることができるように努めました。

■避難及び防災訓練

・実施状況

	実施日/訓練想定
火災訓練 (第一回)	2020年 12月10日 ・施設入所（夜間想定） ・日中（日中火災想定） ・グループホーム（夜間・地震/火災想定） ・キュール（日中火災想定）
火災訓練 (第二回)	2021年 3月25日 ・施設入所（夜間・地震/火災想定） ・日中（日中火災想定） ・グループホーム（夜間・地震/火災想定） ・キュール（日中火災想定）
非常食材の提供	昼食に備蓄食材を提供し実際に試食



備蓄アルファ米 50人前/箱



熱湯注ぎ 1時間蒸らす



昼食にて試食(炊き込みご飯)

- ・実施内容
 - ・各災害時における避難訓練及び職員の役割確認（ロールプレイ）
 - ・三誠産業協力のもと、救命袋や散水栓を実際に使わせてもらう

■災害対策委員会

- ・実施回数：7回（2020年5月～2021年3月）
- ・実施内容
 - ・BCPの更新（5月、11月）
 - ・各訓練の計画、実施、振り返り

2021年度へ

- ・災害時に起こりうる状況を情報収集し、より実際の想定に近い形での避難訓練を計画、実施
- ・BCPの見直し、更新
- ・各委員の災害対策、予防についての知識を高める
- ・防火管理責任者研修への参加
- ・行政や春野地域との情報交換を行い、災害時の役割を考える

栄養委員会の取り組み

■総括

新型コロナウイルス感染症が蔓延する中、利用者に安心して食事ができる環境を提供しました。またコロナ禍でも楽しめる食のイベントを委員会で企画し、実施しました。

■実施状況

	実施日
第 1 回	2020 年 4 月 21 日
第 2 回	2020 年 5 月 19 日
第 3 回	2020 年 6 月 16 日
第 4 回	2020 年 7 月 21 日
第 5 回	2020 年 8 月 18 日
第 6 回	2020 年 9 月 15 日
第 7 回	2020 年 10 月 20 日
第 8 回	2020 年 11 月 17 日
第 9 回	2020 年 12 月 15 日
第 10 回	2021 年 1 月 19 日
第 11 回	2021 年 2 月 16 日
第 12 回	2021 年 3 月 16 日

食堂のレイアウト変更



イベント食
～ 寄せ鍋 ～



■実施内容

① 新型コロナウイルス感染症対策の実施

食堂にテーブルと椅子を新たに導入し、食事の際に対面とまらない環境の設定を行った。

② コロナ禍でのイベント食実施

三密を避けまた施設の立地環境を活かしたイベント食を定期的の実施することで、日ごろの閉塞感を払拭していただけるような機会を提供した。

③ 嗜好調査の実施

利用者が施設での食事についてどのように感じておられるかを把握するため、年に2回実施した。調査結果をもとに調理方法の見直しや献立へ反映することで、食事満足度の向上に努める。

④ 食育と環境問題への取り組み

利用者から要望が多くまた伝統的な和食である納豆の提供を希望者に開始した。そして今年1月から牛乳パックが「脱・プラスチック」化により、ストローなしで飲める容器に変更した。背景にある環境に対する社会的な取り組みに対し、障害者支援施設として微力ながら貢献していく。なおいずれも麻痺等がある方が、退所後の自立に向け専門職と連携して継続的な支援を行っている。

⑤ 厨房機器の保守

施設開設から10年以上が経過し、厨房機器のトラブルが多くなってきている。給食委託会社やメンテナンス会社と連携し、異常の早期発見と状況に応じ適切に対応していくことで、機器の保守に努めた

2021 年度へ

- ・食に関する情報の提供や利用者のニーズに応じた取り組みを行っていきます
- ・定期的に嗜好調査を実施し、利用者の声や意見をもとに食事に反映させていきます
- ・障害者支援施設として、訓練的な要素のある食事の提供や社会的な関心へも目を向けていきます
- ・給食委託会社であるエームサービスとの連携を図り、質の高い食事の提供を継続します

事故報告

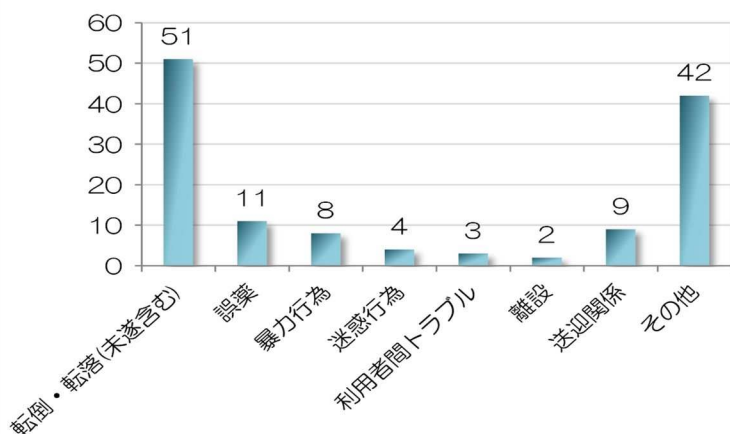
■ 総括

各事業で提出された事故やインシデント・アクシデント報告の検証を行い、リスク回避が出来るように努めています。利用者に影響がなかったインシデント 130 件・アクシデント 11 件で、事故レベル 3 は就労支援事業の受注業務内容の不具合によるクレームと、キュールの特定児童の物損事故です。事故レベル 4 では、転倒による骨折が 3 件と顔面挫創による縫合が 1 件報告されています。いずれも病院受診と継続治療で後遺症等なく回復されています。

■ 事故発生状況

事故レベル	事故レベル定義	障害者 支援施設	アルパーテ	はるの ハビリ ホーム	キュール	法人本部	その他	全体
0~1 (インシデント)	ヒヤリ・ハットすることはあったが利用者に影響はない 何らかの可能性があり経過観察の結果影響はない	98	14	5	5	5	3	130
2 (アクシデント)	医療機関への受信が必要となった 受診の結果、縫合や固定処置などは必要なかった	5	0	0	2	4	0	11
3 (事故)	受託先や発注先とのトラブルやクレームに対して 謝罪や弁償を行った	0	3	0	3	0	0	6
4 (事故)	事故のため通院治療や長期にわたり治療や入院が 必要となった	3	0	1	0	0	0	4
5 (事故)	事故が死因となった 自傷・他傷（自殺企図や暴力）にて病院受診と なった	0	0	0	0	0	0	0

■ インシデント 130 件の内訳



【転倒の分析】

- ・転倒未遂の報告は 8%
- ・転倒の約 8 割が居室か訓練中に発生
- ・車椅子利用者の転倒は移乗時が約 8 割
- ・自立歩行利用者は訓練中の転倒が約 7 割
- ・就労利用者は環境要因の変化で転倒発生
- ・転倒経験者の約半数は再転倒し、複数回繰り返す

【対策】

- ・ヒヤリハットの時点で転倒予防対策を講じる
- ・車椅子利用者は居室の移乗動作練習、福祉用具の選定、環境調整を密に行う
- ・自立歩行の利用者は訓練中の動作を評価し、適切な内容と負荷量の訓練を提供する。
- ・就労の利用者はイレギュラーを未然に防ぐことが転倒予防に繋がる。
- ・転倒は初回発生時にしっかりと対策するとともに、その他の場面での転倒も予見する。

2021 年度へ

- ・事故等発生時において適切かつ迅速な対応をとるとともに、事故等の発生要因や再発防止策の実効性を検証し、利用者等に対するサービスの質の向上及び施設等の運営の適正化に努めます。

ご意見・苦情

■総括

ハビリの4カ所にご意見箱を設置し、利用者の方々からの意見をまとめています。ご意見箱に投書された意見はサービス管理責任者によって定期的に回収し、迅速に問題解決に取り組み、ご意見に対する回答を掲示しています。

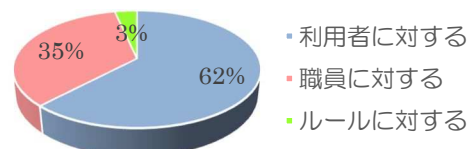
昨年度と比較し、ご意見箱への投書が増えた事に加え、感謝の言葉も頂けるようになりました。また、直接サービス管理責任者に相談に来てくださるケースが増えて来ており、2019年度から苦情相談の窓口がサービス管理責任者になった事が定着して来ているように感じます。

食にまつわる、ご意見、ご要望が多いですが、利用者様の健康を考えて可能な事は実現していきたいと考えています。2020年度は頂いたご意見により朝食に納豆の日を設ける等、要望内容に対して具体的な対応を行いました。頂いたご意見をもとに検討を重ね、出来る限り要望に応え、利用者の満足につなげる努力を行っています。

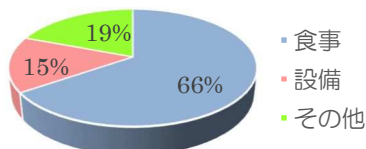
■ご意見箱の内訳

内容	要望	感謝	意見	不明	苦情	合計
2020年	26	2	6	8	29	71
2019年	21	1	2	9	17	50

苦情内容



要望内容



(利用者に対する)

- ・特定の利用者の言動に対するもの

(職員に対する)

- ・伝達内容が伝わってない
- ・もっと優しく丁寧に話して欲しい

(ルールに対する)

- ・(工作中) トイレに行く時報告しないといけない

- (要望例)
- ・納豆が食べたい
 - ・月ごとにパンの種類を変えて欲しい
 - ・今年もボーナスを支給して欲しい
 - ・毎日移動スーパーがきてくれたらいいな
 - ・旧館のトイレもウォシュレットをつけて欲しい
 - ・ツナガールによるマグロ解体ショーをして欲しい
 - ・グループホームの洗濯機を新しくしてほしい
 - ・食べきれない事があるので器を大中小と分けて欲しい

2021年度へ

- ・苦情への適切な対応により利用者の満足度を高めることや、早急な虐待防止が講じられ、利用者の権利を養護するとともに、福祉サービスを適切に利用することが出来るよう支援に努めます。
- ・苦情解決を密室化せず、社会や客観性を確保し、一定のルールに沿った方法で解決を進めることにより利用者主体の質の高いサービスの確保、及び支援に努めます。
- ・第三者評価を導入し、課題を把握する事でサービスの質の向上に繋がります。

職員採用・教育・監査

■総括

職員総数は63名（2021年3月末）で、新規職員採用は12名、退職者は9名（2019年度は9名）です。新規採用職員には採用後教育として約3か月間の社福全体の事業実務研修を行い、適性に合った配属を行い、配属後は配属部署にて新人教育計画に基づいて新人教育を行っています。入職した職員の持っている能力が発揮できるよう、教育担当スタッフ中心に丁寧な指導にあたっています。

■職員状況

職員総数（63名）	
センター長	1名
部長	2名
主任	3名
サビ管	5名
相談支援員	1名
支援員	31名
パート職員	19名

■入・退職状況

入職者		退職者	
正規職員	3名	正規職員	4名
臨時職員	1名	臨時職員	0名
パート職員	8名	パート職員	5名
合計	12名	合計	9名

■採用後教育

- ・ハビリテーリングセンター9事業+法人本部+ウェブの実務研修
- ・研修終了後には研修発表会実施
- ・配属部署には教育担当職員を配置
- ・配属部署にて業務課題チェック表作成（1・3か月時に振り返り面接実施）
- ・半年経過時に個人目標管理シート作成

■資格の取得

資格取得者					
介護福祉士			サービス管理責任者	ノーリフティングマイスター	
大原 聡一郎	徳廣 知与	岡本 幸代	山添 千菜	西岡 由江	島崎 義広

■職員研修

- ・別紙「2020年度研修一覧」にて実績を示す

■監査

- ・行政監査実施なし（サビ管を中心に内部監査システム稼働開始）

学生実習

■総括

- ・中、高校生のインターンシップ実習から専門学校における臨地実習を引き受けました。
- ・専門学生の実習には、臨床実習指導者認定者を担当として丁寧な指導にあたりました。
- ・個人情報等の取り扱いは、事前に十分説明を行い同意書を交わして実習に臨みました。
- ・コロナ禍の為、受け入れに際しては体調や県外への移動の有無等を確認して実施しました。

■実習受け入れ一覧

	学校名	実習内容	延日数	人数
1	近森病院付属看護学校3年生	在宅看護	10日	40名
2	近森病院付属看護学校2年生	小児看護	4日	37名
3	高知中央高校看護学科専攻科	在宅看護	40日	16名
4	高知リハビリテーション学校	作業学科学外授業	10日	2名
5	高知東高校看護学科	基礎看護臨地実習	1日	22名
6	春野高校	インターンシップ	コロナ禍の為中止	
7	横浜中学校	インターンシップ		
8	高知大学等	介護等体験実習		
9	土佐リハビリテーション学校	作業療法学臨床実習		

2020年度職員研修一覧

2020年4月1日～2021年3月31日

市内研修				
日 時	研修内容	主 催	参加者名	
1	2020/6/16	高知市相談支援事業所連絡会	高知市障害福祉課	半田明日翔
2	2020/7/20～8/21	四国管財研修		野本生子
3	2020/8/24	高知市相談支援事業所連絡会	高知市障害福祉課	半田明日翔
4	2020/8/26～28	令和2年度就業支援基礎研修	独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構	坂上博子
5	2020/8/28	令和2年度発達障害に関するセミナー・みてわかる支援と環境づくり講座	高知県立療育福祉センター	岡本幸代
6	2020/9/23	苦情解決セミナー	高知県社会福祉協議会	藤本佐和子
7	2020/9/24～25	強度行動障害実践研修	高知県障害福祉課	川淵佐織
8	2020/9/30	若者はばたけプログラム①	高知県教育委員会	田村亨介、柏木雷太
9	2020/10/6	令和2年度高知県経営協特別セミナー 福祉施設・事業所の新型コロナウイルス対策	高知県社会福祉法人経営者協議会	西岡由江、山添千菜、瀧石公正、吉野竜二
10	2020/10/9、11/30～12/1	令和2年度 サービス管理責任者等基礎研修	高知県	山添千菜
11	2020/10/13	発達障害者の就労支援(高機能・ASD者を中心に)	高知県立療育福祉センター	柏木雷太
12	2020/10/13	若者はばたけプログラム②	高知県教育委員会	田村亨介、柏木雷太
13	2020/10/20	高知市相談支援事業所連絡会	高知市障害福祉課	半田明日翔
14	2020/11/9	相談支援事業所研修会	高知市障害福祉課	半田明日翔
15	2020/11/18	若者はばたけプログラム③	高知県教育委員会	田村亨介、柏木雷太
16	2020/11/21	発達障害者の就労支援について	高知県立療育福祉センター	安岡航、中内海人
17	2020/12/5	高次脳機能障害研修会	高知県高次脳機能障害支援拠点センター 青い空	瀧川徹
18	2021/1/20	三里園芸出荷場見学	中央西農業振興センター 高知農業改良普及所	西岡由江、蒲原弥華、福西利孝
19	2021/1/26～28	高知大学付属特別支援学校授業参観	高知大学付属特別支援学校	安岡航、杉本万奈、島内文菜、中内海人、清藤圭佑、片岡千佳
20	2021/2/19	問題解決技能トレーニング	高知県立療育福祉センター	橋本竜太、浅岡秀吉
21	2021/3/4	農福連携サミット	高知市農福連携研究会、高知県農業会議	西岡由江、蒲原弥華、別役永英
22	2021/3/18	高知市相談支援事業所連絡会・報酬改定説明会	高知市障害福祉課	半田明日翔
オンライン				
日 時	出張内容	主 催	参加者名	
1	2020/10/14～20	令和2年度 高知県相談支援従事者初任者研修	高知県	山添千菜
2	2020/10/22	令和元年度スーパーバイズを活用した支援の実践報告会	社会福祉法人 末島会 南海学園	半田明日翔、蒲原弥華、福西利孝、浅岡秀吉、中山彩香、谷口東那
3	2020/12/3	親亡き後の支援について	高知相続あんしんセンター	島内文菜
4	2020/12/5	高次脳機能障害研修会	高知県高次脳機能障害支援拠点センター 青い空	藤本佐和子
5	2020/12/8	虐待防止研修①	高知県社会福祉協議会・権利擁護センター	西岡由江、蒲原弥華、島崎義広、元木智之
6	2020/12/14	第1回SARAYA感染対策Webセミナー	SARAYA	島崎義広、谷岡真代、笠松早由、大上美幸、吉野竜二
7	2020/12/18	虐待防止研修②	高知県社会福祉協議会・権利擁護センター	西岡由江、蒲原弥華、島崎義広、元木智之
8	2021/1/28	第2回SARAYA感染対策Webセミナー	SARAYA	谷岡真代、笠松早由、大上美幸、吉野竜二
9	2021/2/17	給食関係者向け食品衛生法の改正並びにHACCP講習会	高知市保健所	杉本彩、橋本竜太
10	2021/3/3	令和2年度 高知県難病医療に関する研修①	高知県 難病診療連携コーディネーター	蒲原弥華、半田明日翔
11	2021/3/4	変わった人がつぶされにくい社会にするために		安岡航、杉本万奈、島内文菜、中内海人、清藤圭佑、片岡千佳
12	2021/3/7	高齢者・障害者の自動車運転研修会	高知県作業療法士協会	杉本彩、橋本竜太
13	2021/3/8	地域生活定着支援研修会	高知県、高知県社会福祉協議会	半田明日翔、久保内幸彦
14	2021/3/18	令和2年度 高知県難病医療に関する研修②	高知県 難病診療連携コーディネーター	蒲原弥華、半田明日翔
15	2021/3/23	ペアレントトレーニングについて	LITALICO発達ナビオンラインセミナー	杉本万奈、清藤圭佑
16	2020年6月	虐待研修	Ecareラボ	全職員
17	2020年9月	チームワーク	Ecareラボ	全職員
18	2020年10月	接遇①	Ecareラボ	全職員
19	2020年11月	接遇②	Ecareラボ	全職員
20	2020年12月	接遇③	Ecareラボ	全職員
21	2021年1月	接遇④	Ecareラボ	全職員
22	2021年2月	クレーム対応	Ecareラボ	全職員
23	2021年3月	リスクマネジメント	Ecareラボ	全職員
内部研修				
日 時	研修内容	講 師	参加者数	
1	2020/8/25	AED研修	中澤氏家業株式会社	13名
2	2020/12/17	ガウンテクニック	大上美幸	12名
3	2021/3/11	クレーム対応	四国管財株式会社 会長 中澤清一	17名
4	2020/5/19	対麻痺について	杉本彩	18名
5	2020/6/9	接遇について	清藤圭佑	13名
6	2020/7/14	脳卒中片麻痺について	島崎義広	13名
7	2020/8/11	高次脳機能障害について	瀧川徹	15名
8	2020/9/8	障害者総合支援法とは	日野	12名
9	2020/10/20	サビ管とは	藤本佐和子	7名
10	2020/11/10	片麻痺を呈する方の動作①	田村亨	11名
11	2020/12/15	片麻痺を呈する方の動作②	田村亨	12名
12	2021/1/19	車椅子・装具について	杉本彩	6名
13	2021/3/16	機能訓練の加算について	島崎義広	7名